

留学報告レポート: 玄奘大学(台湾)「国際文化週」に参加をして

安全安心生活デザイン学科

3年 結城梨奈

今回、私は、薙刀部に所属していたことを含め、日本の伝統文化を紹介することを目的として玄奘大学国際文化週への参加を決意しました。パワーポイントでの発表は、東日本大震災からの復興、東北工業大学での学生生活や研究内容、に指定されたため伝統文化をメインに発表することはできませんでした。しかし、派遣された4名の学生が各々作成した自己紹介動画を発表前に再生することが決まり、そこで自分が薙刀部に所属していたことをアピールしました。後日、発表を見た学生のアパートに宿泊したのですが、「薙刀すごいね。」と話してくれて、少しでも興味を持ってくれたようでとても嬉しかったです。

6日間の台湾での生活の中でいちばん驚いたことは、公共交通機関の運賃の安さです。新竹市と台北市に観光に行くときや、空港から大学へ向かうときに地下鉄や高速バスを利用しました。仙台市では最低でも200円かかる地下鉄が、台湾では20元、約75円で利用できるのです。市内を走っているバスも、同じくらいの運賃でした。片道1時間半ほどの高速バスは120元、約450円で、新幹線は130元、約490円と日本と大きく差がありました。日本ではあまり普及していない自動車配車サービスの”Uber”も利用しましたが、台湾では広く利用されていると現地の学生から話を聞きました。なぜこんなに交通機関に違いがあるのか、興味深いので調べる予定です。

また、玄奘大学での教育体制はどのようなものかみることができました。26日(水)にガラス細工の授業を体験し、先生と一緒に作ったマドラーと、先生が作って教室に展示していたマドラーをいただきました。日本でもこのような授業をおこなっている大学があるのかはわかりませんが、実践的かつ生徒3人ほどに対して先生が1人だったので、細かく指導している体制に魅力を感じました。今まで工場でやっている印象しかなかった、火を使った作業でした。同じ日の夜には、日本昔話の桃太郎をテーマにした約1時間半の卒業公演を鑑賞しました。日本人からは発想できない、最近の流行や言葉遣いを交えてアレンジされた、とても面白い公演でした。連続した時間、日本語を違和感なく話す学生たちに驚きを隠せませんでした。いくら日本語を学んでいる学生でも、ここまで素晴らしい劇に仕上げるには相当の努力と練習が必要不可欠だったと思います。先生の話によると、授業にあまり出席していない生徒や、受講態度が悪い生徒が、講演をするにあたり、クラスメイト丸となって準備や練習を協力しおこなっていたそうです。私たちが英語を話すことのように、外国語を話すことは簡単ではないことは明らかです。それをやり遂げた生徒の学習意識やスピーキングレベルは非常に高く、教育水準の高さを目にすることができたいい機会となりました。

今まで私は、英語の力を伸ばしたいと考えていたため、中国語には全く興味がありませんでした。留学に関しても、英語圏に行くことを重視していました。しかし、中国の人口が世界一であることを踏まえ、最も話されている言語が中国語であることを知り、軽い気持ちではありますが勉強したいと思うようになりました。台湾の大学に通っている友人もあり、わりと中国語は近い存在なのではないかと感じています。台湾滞在中は、玄奘大学の日本語を流暢に話す学生が付き添ってくれていたため、飲食店で注文をするときを含め、誰かとコミュニケーションをとるときは学生を通して話していました。そのため、中国語を話す必要も困ることもなかったです。それと同時に、全く中国語がわからない自分がもどかしく、話している内容すら理解できないため、悔しい気持ちが芽生えました。再び台湾に行きたいと考えているので、少しでも話している内容を理解し、簡単な会話をすることができるくらいの知識を身に付けて次回は渡航したいです。きっと今回とは違った経験や観光ができるのではないかと思います。加えて、中学生から随分と長い間、外国語としては英語しか勉強してこなかったため、この機会に中国語を学び始めようと考えています。

帰国後には、長期留学への意欲が大きくなりました。前述したとおり、今回の留学では現地の学生の付き添いが

あり、中国語を話す必要がありませんでした。今までの経験を含めても、海外には最長で1週間しか行ったことがなく、授業を受けることをメインとした留学ではなかったため、語学能力向上を目標とするには難しかったです。今後留学する際には、語学能力向上を目的として、最短でも1ヶ月は滞在したいです。私の友人は、3週間の留学を経験し、留学前には想像できなかったほど語学能力を伸ばして帰国しました。留学期間と、どれだけ能力が向上するかは、個人差があってもある程度比例すると思うので、時間がある学生のうちに長期留学に挑戦しようと思います。

今回の玄奘大学・国際文化週への参加は、中国語習得にあたり、大きなきっかけとなりました。台湾に行くことができ、本当に良かったと感じています。このような機会を与えていただき、誠にありがとうございました。



玄奘大学生からの歓迎されました



台湾の夜に浮かび上がるお寺



台湾版「桃太郎」、おもしろかったです



現地の学生との交流は楽しかったです

① 留学目的の達成度

留学目的の達成度は100%です。私の目的として、現地の学生の生活や学生寮で過ごしたことで台湾の学生あるいは、日本の学生も含め現実的な厳しさを学び取ることができたと思っています。確かに、日本の生活は快適です。エアコン、ストーブ、扇風機、そのほか家電は新品でいいものを購入でき、経年劣化が来る前にまた買い替えればいいサイクルがあります。リサイクルにも出すことができます。そして、布団の重要さと温かさを、身をもって知りました。台北や新竹は北の方にあり、夜は風が強くて寒いです。いつも4枚かけて寝る私にとっては、一枚だけの布団は寒くて、軽くて変な気分でした。

私が海外にきて最初に考えることは、食糧確保です。国が変わって、味が変わると食べられるものが限られるからであり、日本の味付け等の匂いに近ければ食べられます。台湾だと八角という香辛料が料理の中に入っていて、匂いがきつくて苦手でした。そもそも、八角は、豚肉料理の独特な臭みを取るために使われるそうですが、薬膳料理とすることもあるそうです。台湾では、豚を使った料理が多く、豚の血を調理したこんにゃくのような料理もあり見た目は、どす黒く、弘前の桜まつりで売っている黒こんにゃくの様でした。

(検索してみてください)

玄奘大学の学生から、日本語劇「桃太郎」を見せてもらいました。学生たちの日本語は聞き取れるほど上手で、4年かけて日本語を習得するそうで、みんな努力していることが大量の教科書や参考書から伝わってきました。彼らの努力を尊重し、私自身も言語の習得に努めたいと思いました。脚本が面白くてずっと笑っていられました。毎年劇があるならば、個人的にでもまた玄奘大学に行ってみに行きたいです。今回友達になった学生たちが主演の劇が楽しみです。

② 留学、学習、国際理解への意欲に関する留学前後の意識の変化

今までよりも中華系の文化に触れたいと思いました。中国語を習得することはすごく大切であることに気づきました。台湾の人は、どちらかという英語より日本語で話しかけてきます。日本人としては、とても近い文化で親日であるように受け取ることができました。日本語を話してくれるだけでもうれしいので、私たちが英語だけじゃなくて台湾の人や隣のアジアの国々を考え、中国語を学ぶことは有意義なことであると思います。これまでもアジア圏内を旅してきましたが、中華系の人々が多いことに気づきました。もちろん英語を話す人もいますが、ほとんどが中国人観光客です。これからもアジア圏内を飛び回ってみたいので、中国語にも取り組んでみたいです。ただ、発音が難しいので台湾の学生に聞きながらやりたいと思います。

台湾の人は、全体を通して信じられないくらい優しくったのが印象的です。なぜこんなに優しいのか。また、日本人には真似できない気遣いがあります。人との助け合いが活発で、よく震災時に聞く自助共助が日ごろからできていることに驚きでした。なぜかなと思ひ観察したところ、平日頃から互いと関わる時間が多く、一人ひとりを理解している関係が築かれていました。日本人ももっと心を開いて多くの人とかかわってほしいですし、多

様化した社会であるからこそいろいろな出会いがあることを知って、タイプの変った人付き合いも見つけてほしいと今の学生に言いたいです。

利己的な考えですが、日本語が広がればいいなと思いました。理由として、日本が良い国として注目され、観光客が足を運んでくれている中で日本人には海外に行ったことのない人が多いです。言語の壁が高いから行かないと聞きます。その人たちにも海外の人がどうなのかを知ってもらいたいし、日本の生活レベルがいいことを感じてほしい。そして、恵まれていることに気づいてもらいたいです。私は、これからも日本の良さを伝えていきたいのと、地元青森についてももっとアピールをする機会を見つけたいと思いました。

アジア人の一員として、アジアの国々の人々と仲良くしたいと思える6日間でした。

③ 今後の長期留学等の意欲

今後は、留学よりもビジネスで世界に目を向けてみたいと思っています。ベトナムを店舗経営に携わったことを生かし、新興国で先進国育ちの日本人が技術を伝えるべきだと考えています。自国だけに囚われずこれからはアジアの新興国が発展する時代にきているので就活の幅も広げられそうです。そのためには、やはり言語の習得は必須なので、例えば、卒業後に語学留学をすることを考えていますが、何歳でいつ始めるかは社会に出てからでもいいかなと考えています。現在大手アパレル業界でアルバイトをしているが、海外支店もあることから海外で働くことを意識しています。



玄奘大学生によるお別れ会を開いてくれました



蒋介石像の前にて記念撮影しました



不思議なモニュメントにて飛鳥先生たちと記念撮影です

留学報告レポート: 玄奘大学(台湾)「国際文化週」に参加をして

電子電気工学科

2年 小林 由佳

私は、国際交流に興味があり海外の文化や歴史の違いについて現地で知りたいと思い、今回の台湾の派遣へ応募した。さらに、台湾の学生や人と関わることで自分のコミュニケーション能力の向上、実際に現地の生活に触れることで今後の自分の学習に生かせる技術を発見することを目的として行った。

台湾の台北市の気候は、暖かい日と寒い日の気温の差が大きかった。日中は暑く、夜は寒いことが多く気温は違うが、日本の気候と似ていることが分かった。台湾の町では、バイクが多く走っており、交通量が多いため、日本の東京と同様で大気汚染が進んでいるのではないかと考える。町で歩く人の多くは厚いマスクをつけている人が多かった。衣服は、半ズボン、半袖、サンダルでいるラフな格好をしている人が多くみられた。日本の場合は、外出するときと部屋にいる時の服が異なるので、少し違和感があった。台北市の街中は、建物が多く建っているが、裏路地や建物の裏を見てみると、驚くほど古い建物が立ち並んでいた。街の中にも歴史を感じるような建物が多く立ち並んでいた。これは、地震や災害が起きててもその状態を保つことができ、歴史や文化を大事にする文化があるのではないかと考えた。台北の様々な場所で行われている夜市は、夕方から日本のお祭りの出店のうなお店を出しており、安く美味しい料理を食べることができた。ほぼ毎日夜市は台北のどこかで開催されているので、私からすると毎日がお祭りのようだった。台北の地下鉄を利用する際に、チケットの代わりにプラスチックのコインを利用した。チケット代よりも多い金額のお釣りがでて、日本はお釣りが正確に出てくるのが当たり前だと感じていたため、改めて日本の機械技術の素晴らしさを感じることができた。

玄奘大学では、学校祭や、授業を受けたり、学生と昼食をとったりした。東北工業大学と比べて土地も広く、自然に囲まれた良い学校だと感じた。また、校内に学生寮があるため移動時間が少なく済み勉強に励むことができると考える。日本の学校と比較して違う点は、トイレ一つの部屋にトイレペーパーが付いていないことや、外のコートでバスケやバレーをしていた点である。台湾の台北市は気温が日中は暖かいため、コートは外にあるのだと考えた。台湾の方々は親日家が多く、日本でいうおもてなし精神があった。台湾に到着した日はウェルカムパーティでもてなししてくれた。

この、玄奘大学の派遣を終えて、コミュニケーションの大切さを改めて知ることができた。しかし、その国の言葉を読むことができなくても、英語やジェスチャーで伝えることができることがわかった。伝えようとする気持ちが大事であると考えた。台湾の方々は、親日家が多いためか親切で優しい人が多かった、

また、今回の派遣で台湾の魅力、日本の魅力を発見することができた。そのことを、SNS を使って広めていきたい。台湾の学生に東北の文化をこれからも発信していきたいと思う。次に玄奘大学の学生が東北工業大学に来る際は日本の文化を伝え、おもてなしすることが今回の派遣の玄奘大学に対する感謝だと考える。これからも、留学や海外派遣に是非参加し、自分の可能性を広げるためにも積極的に大学の勉強と両立しながら行っていきたいと思う。

最後に、このような派遣で台湾の玄奘大学に行けたことを嬉しく思います。飛鳥先生、大学さん、そして、玄奘大学の池田先生各位本当にありがとうございました。



「国際文化週」にて、玄奘大学生は浴衣姿でした



玄奘大学から「国際文化週」に参加した記念品を頂きました



台北市内を観光しました

留学報告レポート: 玄奘大学(台湾)「国際文化週」に参加して

建築学科

2年 澤田 充

今回、玄奘大学の学生に対して「東日本大震災 復興への道～当時、現在、そして未来～」という題名で、東日本大震災の被害と、復興の現状、台湾を含む当時支援して下さった国への感謝、日本人の国民性などを理解してもらうためにプレゼンテーションを行いました。用意していただいたプレゼンテーションの時間にはもちろんのこと、学生寮に帰ってからも、興味がある学生には英語を交えながら紹介しました。プレゼンテーションは日本語で行なったのですが、聞きにきてくださった学生のほとんどが日本語を学んでいたことと、自身の被災体験を交えたこともあり、震災の被害と被災地の現状を深く理解してもらうことができたと思っています。自身の紹介に関しては、動画という形をとりました。動画を鑑賞してもらいながら、自分のことをよく知ってもらうことができ、その後の交流も円滑に進めることができたので、この手法は成功だったと考えています。国際交流については、学生寮に滞在していたこともあり、学生と長時間にわたって密に交流することができました。寮に帰ってからは、私が日本語学科の学生に日本語を教え、反対に、気になる表現を中国語に翻訳してもらったりと、充実した時間を過ごすことができました。玄奘大学の学生は、日本に対して興味を持っている方が多く、お互いの趣味や、国の文化など夜が開けるまで話しました。寮で一緒になった学生以外にも日本文化週の際や、施設見学、学生のアパートへのホームステイの時などに交流し、とても充実した時間を過ごすことができました。

私は、幼稚園の頃から英会話を学んでいたこともあり、小学生の頃から海外留学に対して興味がありました。特に英語圏には憧れを持っており、高校生の頃はカナダ、東北工業大学に入ってから KAKEHASHIproject に参加させていただき、アメリカに渡航しました。その度、留学や言語学習に対する意欲が増し、自分の学習に対するモチベーションを維持することができています。そして今回、台湾への派遣をメールで知り、今まで行ったことがなかったアジアへの短期留学を経験させていただきました。派遣前は台湾についての知識もなく、公用語である中国語を学習したこともありませんでした。そのため、言葉が通じるか不安もありましたが、派遣先の学生が日本語を学んでいるということもあり、留学を決意することができました。台湾に着いて学生と交流を始めてからは、すぐに打ち解けることができました。交流した学生には、今まで以上に日本語や日本の文化に対して興味を湧いたと言ってもらえることができ、自分も台湾の文化に関心を抱きました。学生との交流を通して、旅行では体験できない台湾の文化や生活を自ら体験し、台湾の学生にも日本について理解してもらい、国際交流の大切さを考えさせられる六日間でした。

今回の派遣で、関わった多くの学生と友達になることができ、現在も SNS を通じて交流を続けています。しかし、会話は日本語か英語でしか行うことができていません。台湾の学生は、日本語はもちろん英語も上手く、自分の言語力の無さを痛感させられています。友達になった学生と、彼らの母国語である中国語で会話したいという思いから、中国語の学習にとっても興味を持ち、今回派遣していただいた玄奘大学で夏季休業中に中国語講座が開かれると聞き、来年機会があれば参加したいと考えています。また、今まで派遣していただいた国はもちろん、未だ交流したことがない国の人にも日本を知り、興味を持ってもらいたいと思っているので、海外で国際交流を行うことはもちろん、今参加している TICK(国際交流サークル)での活動など、日本に来ている海外の方とも交流にも力を入れ、今後も国際交流活動が続けていきたいと考えています。



玄奘大学でのプレゼンテーション。テーマは「東日本大震災」



現地の学生達に聞いてもらいました



現地の学生達と夜市の出店にてダーツ遊び



台北市にある中正記念堂にて記念撮影しました。天気よかったです。